

# 令和5年度 第2回 伊豆市総合教育会議 議事録

日 時 令和5年7月26日（水）14時30分～15時30分  
場 所 伊豆市役所本庁2F 特別会議室  
出席者 菊地豊市長、鈴木洋一教育長、佐藤雅彦教育委員、西尾真澄教育委員、  
梅原一仁教育委員、猪股園恵教育委員  
市長部局) 伊郷副市長、新聞総合政策部長  
教 育 部) 小塚教育部長、室野学校教育統括監、鈴木社会教育課長、  
坪内図書館長、塩谷学校教育課長、鈴木森学校教育課主幹

- 議 題
- (1) 新中学校と土肥小中一貫校の連携
  - (2) 市内中学校と伊豆総合高校との連携
  - (3) 幼児教育と小学校との連携
  - (4) 不登校対策
  - (5) 修善寺地区の小学校のあり方
  - (6) 図書館の将来像
  - (7) 学校教育施設と社会教育施設（特にスポーツ施設）の相互利用の可能性

## 1 開会

<教育部>

伊豆市総合教育会議規則第2条第2項の規定に基づき、構成員6名の過半数以上の出席により会議が成立することを報告する。会議の内容は、後日、市ホームページで公開する。会議規則第3条により、議長及び議事の整理は市長が行うことになっているため、挨拶と議事の進行を市長にお願いする。

## 2 あいさつ

<市長>

今回の会議を開催するにあたり、議題としてというよりも、市長の関心事項ということで事前に教育長に項目を送らせていただいた。私の今の最大の課題認識は、市長と新教育長で方向性が合っているかどうかということである。本日は、一つ一つを審議するのではなく、方向性の確認をしたい。今まで教育長は教育行政を近くで見たり、学校長として見たり、あるいは教育委員の皆さんも私と話をしたり、あるいは議会をご覧になったときに何かしらの思いがあると思うので、意見等があれば確認をさせていただきたい。

### 3 議題

- (1) 新中学校と土肥小中一貫校の連携
- (2) 市内中学校と伊豆総合高校との連携
- (3) 幼児教育と小学校との連携
- (4) 不登校対策

<市長>

伊豆市の教育に関して、恐らく今までとはかなり状況が違ってきたことは(1)と(2)だと思っている。土肥南小学校と土肥小学校の統合に始まり、中伊豆地区の小学校再編、天城地区の小学校再編、その間に幼児教育施設についても、伊豆市に合併した当時、たくさんあった保育園や幼稚園を民営化して、かなり数を減らして再編成してきた。その流れの中で再来年、新たにできる伊豆中学校と土肥小中一貫校については兄弟校のような強固な連携をとっていきたい。例えばお互いに部活を行き来する、あるいは、伊豆総合高校も現在大幅に生徒数が減ってきているので、夏休みから中学校と高校に、伊豆市が用意した回数券を置いて、生徒が行きたい学校の部活に行ってもらおう。学校が休みの日は修善寺から土肥へマリソレジャーをやりに行く。普段は1人で練習している土肥の子が土日は伊豆中学校に来て一緒に野球やサッカーをやる等。そのような強固な連携を中学生・高校生が共に築いていく。選択肢を広げてあげたいという考え方については、今までよりも強く持っている。伊豆総合高校の本校と新たにできる伊豆中学校、伊豆総合高校土肥分校と土肥小中一貫校の中学生(後期課程)。これらの関係について、教育長として何か考えがあれば発言をお願いしたい。議題の(1)と(2)にまたがる部分である。

<教育長>

本日の午前中に開催した伊豆市教育センター研修会において、教員には話をしたが、伊豆中学校が開校すると市内の学校は8校になるという中で、伊豆中学校と小中一貫校の連携は特に密にしていくべきだと思っている。土肥地区以外の子供たちは6つの小学校から1つの伊豆中学校へと進むため、中学校に入学した時のギャップは今までの中学生よりも大きくなると思う。このため、「小・小」の連携も含めて、子供たちが困らないような形で準備を進めなければならない。土肥小中一貫校と伊豆中学校の部活動についても連携を進めていく。授業や生徒会の活動についても、オンラインでできるようなものもあるため、オンラインの活用により共有していきたい。また、学校間で同一のテストをやってみるなど、様々な部分で更に連携を図っていく必要があると考えている。

<市長>

土肥の学校を小中一貫校にするときに、保護者から「学校のテストも市内の中学校と同じにしてほしい」という要望があったと聞いているが。

<教育長>

そのような話はあった。現在も市内では数学や理科などで、一部の学年の定期テストでは、

20～30%の割合で共通問題を出している。

<市長>

伊豆中学校が開校してから急に様々なことを同一にすることは難しいので、今から進めておいた方がよいと思う。制服の統一などはまさにそうであり、今現在、シンボリックに準備を進めてくれていると思う。

<教育長>

これは私見ではあるが、例えば土肥小中一貫校を特認校とし、市内全域を学区にして通えるような形も一つの案として検討する必要があると考えている。そうすれば大きな学校の集団では、なかなか馴染めないが、小規模な学校では上手く集団に溶けこめるという子もいるかもしれない。前の学校では上手く溶け込めなかった他地区から移住してきた子供が、小規模の学校では通うことができている事例もある。近隣では三島市立坂小学校がそのような学校（市内に住所があれば学区に関係なく通える小規模特認校）にあたる。土肥小中一貫校を特認校にして、伊豆市全域を学区にすれば指定校変更ではない。そのような選択肢も一つあってもよいかと思う。土肥から修善寺に通うだけでなく、修善寺から土肥へ通うという形もあるのではないかと個人的には思っている。伊豆総合高校では入試に学校裁量枠で地域貢献による採用枠ができた。今まではスポーツや学業で優秀な生徒をとっていたが、今回、新たに地域貢献という枠を10%程設けたそうである。ボランティアで在学中に活躍したい、卒業してもボランティア活動をするなど、かなりボランティアに意欲的な子たちもいるので、そのような活動を高校が認めて、入試の選抜段階から、そのような特色のある子を合格させるという伊豆総合高校独自の特色を出しているため、そのようなところも含めて連携ができればよいと思う。

<市長>

議題（4）の不登校対策とも関係してくるが、私の知り合いのお子さんが、中学生の時に不登校になってしまった。しかし伊豆総合高校土肥分校に進学したら学校に通えるようになり、大学も合格した。やはりそのような子供たちに合った選択肢が得られるのは良いことだと思う。

<教育長>

私も土肥の中学校に勤務していたことがあるので、土肥分校との連携の重要性は感じている。中学生のときには学校に馴染めず通えなかった子が、土肥高校（当時）に入学した後は生徒会の役員も務めて生きいきと学校生活を送れるようになった子がおり、他にもそのような子を何人も実際に目の当たりにしてきている。現在の土肥分校には長期欠席者を受け入れる枠も設けられている。

<市長>

特認校にして選択肢を増やすという考え方は今まで全くなかったもので、勉強になった。こんなに綺麗な自然があり、観光客が喜んでお金を払って来てくれる伊豆市で不登校にならなくてもよいのと思う。20代半ばであるが、10年間、自分の部屋から出られない人も知

っている。そこまで長期の引きこもりになってしまうと、立ち直るのは難しくなってくるので、その前になんとかしたい。いつものメンバーの中では学校に行きにくいと感じるのであれば、土肥の海で泳いで気分転換をするのもよいと思う。

(3)の幼児教育と小学校との連携については、これまでもやっていると思う。いわゆる保育園から始まる公教育について、保育園といえども私は幼児教育だと思っているし、抱っこしてあげるだけでも教育だと思っている。そこから小学校を経て中学校までの、市が責任を持つ公教育全体のところは、何としても他市町には負けたくないと思っている。議題の(1)～(4)までについては、以上のような思いである。現場の先生方が大変なのは分かるが、何とか公教育では負けないまちにしたい。

<教育長>

伊豆市の学校では今まで、市内の各所と連携をして、縦割り活動をやってきたが、ここ数年間は新型コロナウイルスの感染拡大で思うような活動ができない部分もあった。各学校の校長先生とも話をしたが、自尊感情や、自分への自信を高めるような機会がここ数年間は持てなかったようだ。子供たちのトラブルの状況を見ていると、折り合いが上手くつけられず、感情が爆発してしまうような表れも出てきている。新型コロナウイルスは落ち着いてきたので、今後は同年代はもちろん、縦割りでも人と人の交流を深めていきたい。老人ホーム等の施設にも、今まではなかなか行き難い状況があり、職場体験もできなかった。できたとしても制限があって、施設ではないところに変更するなどした。学校の中だけではなく、地域との結びつきも含めながら、いろいろなところで子供が成長していく機会を作ることができれば、不登校の子たちでも、学校以外の外へ出るチャンスになり、繋がりが広がって良い影響になると思う。

<市長>

教育委員の皆さんの中で、(1)～(4)までについて、何か意見等があれば伺いたい。

<教育委員>

せっかく市内に高校まであるので、本当は土肥にも修善寺にも地元から通ってほしいという気持ちはある。

<市長>

市長の発言としての言い方がすごく難しいが、私は良い教育とは優秀な子を育てようというイメージだった。いわゆる国語、数学、英語、理科、社会の5科目で中学校では全部90点で450点、高校に行っても全科目80点以上で400点ぐらい取って東大・京大・早稲田大・慶應大に入るような子を育てるのが、なんとなく良い教育のイメージでいた。しかし、よく考えてみたら、そのような子供は伊豆市に残らない。例えば外交官になるとか、東京の大企業に就職するような子は、生まれ故郷の伊豆市に貢献するようなことはほとんどない。私事であるが、去年、自分の車を擦ってしまい自動車板金屋に行くことになった。その時に感じたのは、私にとって必要なのは地元の板金屋さんだったということである。床屋さん、バスの運転手さん、大工さん、スーパーの店員さん、そのような人たちが伊豆市民にとっては必

要なのである。しかし、例えば、伊豆総合高校に関してもそうなのだが、大工の跡継ぎや自動車の整備士などの職業の人が地元にはいないと我々は困るのに、それらの職業人に対して、なんとなく良い教育扱いされていない気がする。これは、ちょっとイメージが偏り過ぎているのではないか。以前、中学校の教頭が技術科を教えることになったときに、「やったことがないから自信がなくて」言っていた。考えてみたら技術系の先生はまちの中に大勢いる。自動車修理工場の整備士も大工さんもそうだし、音楽もピアノの先生がいる。技術系の先生はまちの中にたくさんいるのに、教員免許がないと教えられない。しかし、上手く活用できれば、部活の指導についても当てはまると思うが、そのような人こそ、我々の生活には必要な人たちである。さすがに床屋を養成する科は高校にはないが、やはり床屋もゼロになったら困る。そのような人材を育てることを良い教育というのか、と反論されたときに、「5科目が20点でもそれが良い教育です」とはなかなか言いにくい、我々が必要とする社会人になってほしいと言っはいけないものだろうか。これについては教育委員会の専権事項なので、教育委員の皆さんで話し合っていたきたい。

## (5) 修善寺地区の小学校のあり方

<市長>

(5)は難しい問題である。修善寺地区の小学校のあり方についてのアンケートは先日、見せてもらったが、あの内容では少しぼんやりしていると感じた。私が最初に小学校の再編事業に手をつけた頃、当時は教育長とは別に教育委員長がおり、教育委員長は当時、最終的に修善寺地区の小学校再編がまとまらなかった場合は自由学区にしてはどうかと言っていた。通う小学校を親に選んでもらうということである。それも一つの案かもしれないが、先に自由学区にするのではなく、「自分の子供はどこに行かせたいですか」というアンケートを取ったらどうかと教育長には話をした。例えば1クラス10人になっても現在の小学校へ行きたいのか、本当は人数の多い小学校に行きたいのか、自由学区にするよりも先に意向確認する手もあるのではないかと思った。いずれにしても、修善寺地区の小学校再編成についてはまだ全く着手されていないという状況で、唯一、今年の今頃、1人の市議会議員から修善寺東小学校と修善寺南小学校の統合は先に進めてくれないかというような意見があり、私は再編が前に進むチャンスだと思った。今回、教育委員会で4小学校にアンケートを取ったが、これからどのように進めていくのか。

<教育部>

アンケート結果を集計・分析し、各学校やPTAに集計結果を情報提供する。その上で、どうしましょうかという話をしていく。4小学校の保護者など関係者の中で考え方に差があり、まとまらなかった場合は、再編に賛成している小学校区同士から先に再編を行うことも考えている。行政としての考え方ではあるが、伊豆中学校が開校した後、修善寺中学校の跡地を再編後の小学校の校舎として使いたいという案もある。

<市長>

修善寺地区の小学校再編がどのような形になるのか、今の4小学校をそのまま維持するのであれば話は別だが、2校・3校・4校、どのパターンであれ、修善寺地区の小学校を再編する場合には、修善寺南小学校を現在の位置で維持するという点については、それでよい。

<教育長>

私は修善寺南小学校に6月まで非常勤講師として勤務していたが、修善寺南小学校の校舎はかなり老朽化が進んでしまっている。激しい風雨の時は窓の隙間から雨が吹き込んで教室が濡れてしまう。窓や外壁自体も全体的に老朽化している。

<市長>

例えば、修善寺南小学校を廃止して修善寺東小学校や修善寺小学校に再編学校を設置するというような考え方がないのであれば、私としては早く修善寺南小学校の校舎に手をつけたい。もし今頃、修善寺東小学校と修善寺南小学校が統合していたのであれば、すぐにもトイレ等を改修したかったが、単独の小学校がまだ4校あるので1校だけに予算を集中して充てられない。今、教育部からの話があったように、今の修善寺中学校の場所が空いたら、本当はそこを再編小学校の新校舎として改修したいところである。

<教育長>

今後、どのような形で再編が進むか分からないが、交通の関係でも、高台であり場所的にも安全である。

<市長>

修善寺中学校を小学校へ改修することは財政シミュレーションに入っているのか。

<市長部局>

校舎を維持するために改修する想定で計画には入っている。

<市長>

小学校と中学校では階段の規格が違うという話だったと思うが。

<教育長>

蹴上げ(1段の高さ)の寸法が異なる。特例で手すりや滑り止めをつければそのまま使えるようだ。学校を統合して、小学校を中学校に、中学校を小学校に使うという例は多い。

<市長>

修善寺南小学校は私も校舎を見ており、状態が良くないのは知っている。新築というわけにはいかないが、なるべく早く修善寺中学校の校舎を改修してあげたいという思いは持っている。

<教育長>

修善寺地区の再編小学校は修善寺南小学校周辺の場所に1つは置きたいと考えている。

<市長>

将来、校名がどうなるか分からないが、修善寺南小学校が修善寺東小学校より東にあり、修善寺東小学校が修善寺南小学校より南にあるのはどうなのか。2校でも統合してくれ

ば、また校名は変わるのでよいのだが。修善寺地区の小学校の再編成事業について、結論はまだとしても、少なくとも検討に入るのであれば、残す小学校はどこにするのかで合意形成をして、議会にも説明をして、なるべく早く教育環境を良くしてやりたいと思った。私が市長になった 15 年前は小学校が 12 校あり、将来統合する小学校については補修や改修をするというようなことだったらしい。しかし、その時点では特に何も検討されてなかったのも、議会にも説明ができず、大見小学校や狩野小学校を先に改修することは一切なかったのも、統合する際にはどの学校の校舎も傷んでいた。このため、できれば、修善寺駅近傍の小学校は 1 校維持するというのをどこかのタイミングで意思決定をして、議会でも説明しておけば予算をつけられることになる。そのような流れの中で、この周辺地区の小学校のあり方というものも、事業の時期的な優先順位として片隅に置いていただきたい。

## (6) 図書館の将来像

<市長>

図書館については本日の資料にある「図書館経営構想」を私も事前に見せてもらった。図書館長という役職を、社会教育課の中で独立させるということで、図書館に情熱を持った人を選任させていただいた。この資料は、子供からお年寄りまで人が集まる図書館を中核とした事業を考えてほしいと私から伝えて、図書館長に考えていただいたものである。この資料の中で特に強調したいことを説明願いたい。

<教育部>

資料の P1 に記載した「伊豆市図書館の強み」を生かし、P2 に記載したように、本を貸し出すだけでなく、とにかく様々な形で繋がることの拠点として、伊豆市図書館があればよいと思っている。それに向けて色々な事業を展開していくという形である。文化の拠点ということで図書館は事業を考えている。本年度は様々な図書館に関する事業や企画展のバスツアー、音楽コンサート等々、伊豆市の文化の中心となるような形の中に図書館が存在したいということで計画をしている。P3 には、財政的な面及び統計的な面からの分析というもの載せてある。図書館カードの登録率がまだ市民の半数に満たないので、もう少し PR が必要だと感じている。今回の資料の中には主なイベントということで「語ろう推し本」というビブリオバトルの資料を添付している。これは「伊豆市未来塾」の中で、高校 1 年生が企画・発案した事業で、小中学生を対象に本の紹介をするビブリオバトル（参加者が好きな本を紹介し合い、一番読みたくなった本を投票で決めるゲーム）を 8 月 26 日に開催する。人前でこのような自分の好きな本を紹介するということは大人でもなかなか難しいが、少しずつ参加者も増えているので、ぜひ知り合いの小・中学生がいたら、自分の好きな本を皆に紹介する大会があるということを伝えていただきたい。高校生が企画をして、自分たちで仲間を集めて、ここまで準備してきたので、何とか成功させたいと思っている。

<市長>

ビブリオバトルは私も見たいと思ったが、予定が入っており行くことが出来ない。私が最

近読んだ本では「茜唄」という小説が面白かったので、お薦めしたい。図書館として何か事業をやろうとするときに、視聴覚室は予約で埋まっていて使えないことがよくあるそうである。生きいきプラザの健診ホールはなぜ使えないのか。

<教育部>

健診ホールなので、使用した後は消毒を徹底しないといけないようで、衛生管理上、あまり使わせたくないような意向があるようだ。

<市長>

健診ホールだからと言って手術するわけでもないのに無菌にする必要があるのか。

<市長部局>

使うための手続きは必要だと思うが、利用は可能である。

<市長>

静かに本を読みたい人をあからさまに邪魔してはいけないが、行儀よくしているだけが図書館でもないような気もする。音楽を流してもよいと思う。中伊豆の図書館は、せつかく庁舎の外からも入れる作りにしてあるので、できればテラスでコーヒー飲めるような場所を作って欲しい。天城の図書館は井上靖のコーナーを作ったので、地元の朗読会でも絵本の読み聞かせでも、とにかく図書館を利用してほしい。土肥の図書館は市役所の中の会議室の一つのような作りなので活用が難しいところはあるが。修善寺図書館のロータunda周辺に、可能であればキッチンカーに来てもらい、市職員も近隣の病院の看護師さんも、そこでご飯を食べて、日陰で休んで、図書館にも入って、たまには詩の一節も読んでみる、というようなことができればよいと思う。時には子供のイベントをやるのもよい。これについては図書館長が色々と考えてくれているので、ぜひ予算は総合政策部長と交渉してほしい。

<教育部>

来年は市制 20 周年になるので、図書館としても何かできれば、と考えている。

## (7) 学校施設と社会教育施設の相互利用の可能性

<市長>

学校教育施設を社会教育施設として活用することについては、私が以前から発言していることである。私が小さい頃は地区の寺を集会場として使っていて、当時の子供会で天神講や水神講という行事があり、親子で集まり、区の総会も大龍寺に集まっていた。そのうち車社会になっていくと、行事と言えば狩野小学校の体育館に集まるようになっていった。昔はそこで結婚式を挙げた人もいただろうし、小学校を集会場のようにならなくなっていった。その後、社会教育施設というものができていった。つまり昭和の時代に、集会場の機能はお寺から体育館になり、その後、集会場としての建物ができ、体育館も中学校の体育館は中学生が使い、大人は社会体育館などを使うような形になっていったが、さすがに伊豆市ではもうこれらを全て維持管理していくのは無理である。伊豆市は人口が 2 万 8 千人しかいないのに体育館が 22 もあった。今も旧月ヶ瀬小学校や旧土肥南小学校の体育館もあるので伊豆



市は体育館だけである。しかし、小学校の体育館は夜はほとんど使わないのではないか。大人が使う行事やイベント、大人のバレーボールの練習も小学校の体育館で十分だと思う。あくまで合宿などを除いて住民が使う場合であるが。中学校の体育館は夕方まで部活をやっているから使いにくいかもしれないが、平日に大人が使う場合は夜の7時以降ではないか。これはもう財政の問題である。伊豆市は、ある時期まで老朽化した施設を日本で最も多く持っていたが、かなり減らしてきた。このような施設にかかる予算を削減して、将来のために投資する方に向けたい。社会教育のために学校施設を教育の邪魔にならない範囲で使わせていただきたいというのが市長のお願いである。学校の先生は子供が帰ったあとにあまり他の人に学校の施設内に入って欲しくないという気持ちはわかるが。

<教育長>

本日の資料①の7)を見ていただくとわかるが、市民の方にはかなり解放している。コロナ禍前と比べれば、かなり減ってはいるが、学校によっては夜はほとんど毎週予約が入っている。

<市長>

今は昔のように学校に宿直がないので、鍵の明け渡しの問題が生じるが、例えば修善寺駅のコンビニに鍵を預けておいて、それを借りて修善寺南小学校の体育館を開けて、夜はキーボックスを置いとけばいいのではないか。宿直がいなくても鍵の授受ぐらいはできると思う。

<教育部>

今も既にキーボックスを利用している。スポーツ協会で受付をして、ボックスの暗唱番号をもらって鍵を取り出す。学校での受け取りではなくなっている。

<教育長>

昔は学校に職員がいる時間内に鍵を取りにきてもらう仕組みだったが、今は全てスポーツ協会で作ってもらっているので助かっている。

<市長>

土肥南体育館はこれから何か動きがあるのか。

<市長部局>

地域づくり協議会が使っている。

<市長>

津波が来た時のことを考えると心配だから壊してほしいという声があったような気がしたが。

<市長部局>

地域づくり協議会がいらないと言えば壊す方向も考える。

<副市長>

地元の太鼓の練習でも使っていると思う。

<市長>

旧月ヶ瀬小学校の体育館については、近くにあるこども園では使わないようなので、今後は棚を入れて倉庫にしてはどうかと考えている。旧八岳小学校の体育館については、避難所としては八岳集会所の方に費用をかけたいので、八岳体育館は解体したい。旧大東小学校の体育館は避難所として必要なため、体育館として使いながら避難所としても使っていく。土肥地区は土肥小中一貫校ができたが、旧土肥小学校の体育館は市民の利用にはとても良い。たまには旅館に泊まる観光客が使ってもいいと思う。そのような活用が見込める施設はあえて壊したりはしないが、古いものは整理をさせていただき、学校教育課と社会教育課で引き続き、上手く調整していただきたい。副市長から何か意見はあるか。

<副市長>

修善寺地区の小学校について、今後どのようにしていくか。恐らくこのまま何もしないわけにはいかないだろう。どのように進めていくかは、今まで土肥・中伊豆・天城地区の学校再編を教育長は十分経験されているので、ぜひ良い方策を考えていただきたい。

<市長>

学校を減らすということはつらいことである。夢を失ってはいけないが、現実を見ながら、どのレベルで教育環境を作っていくかが、覚悟の決めどころである。

<教育委員>

修善寺地区の通学方法について、自分にはあまりわからないが、山越え等の課題もある。地域的な分け方は何が一番良いのか。

<市長>

修善寺東小学校学区の一部の地区の小学生は修善寺南小学校を横目で見ながら本立野地区にある修善寺東小学校へ通っている。修善寺小学校の子供たちはバス 1 本で修善寺駅へ行くことができる。修善寺南小学校へ通うようになったとしても、心理的な問題はともかく、物理的な通学手段はバス 1 本だと思う。熊坂小学校区の場合は牧之郷地区を経由しているようだ。

<教育委員>

牧之郷地区は今、たくさん住宅が建設されていて、電車などでも通いやすいイメージがある。

<副市長>

現在の修善寺中学校には修善寺地区の生徒は全て通学できている。修善寺南小学校と修善寺中学校は隣接しているので、中学生と小学生の違いはあるが、保護者からすると大きな抵抗感はないのではないか。

<教育委員>

私の地区の小学校再編の時は通学についての意見が多く出ていた印象がある。

<市長>

通学の問題が一番、難しい。最初から最後まで課題は通学である。

<教育委員>

佐野や雲金地区周辺の方から、日向にできる伊豆中学校には自転車で県道から通わせてもいいと思うが事故が心配である、というような話も聞いている。

<市長>

松ヶ瀬地区やその周辺の中学生は、伊豆中学校まで自転車通学をしてもよいと思う。雨天時に備えて自転車通学の生徒に回数券等を市が配布するような配慮は必要かとは思いますが。しかし、1回でも自転車通学の生徒が交通事故に遭ったら、市は何をやっているのか、と言われることになるだろう。

<教育委員>

午前中の教育委員会の定例会で交通事故があったという話を聞いたので、そう考えると、なかなか簡単に「自転車通学も良い」と言い難い。

<市長>

自転車専用道路があれば、間違いなく「自転車で元気に通学しましょう」と言いたいところであるが。市長部局から何か意見はあるか。

<市長部局>

図書館の関係については、いろいろアイデアを出していただいたので、それにできるだけ対応するにはするが、図書館だけではなく、伊豆市としての社会教育の形を考えてもらいたいと思う。図書館だけが突出して様々なアイデアを出して偏りが出るのも困るので、全体的な社会教育としての計画を立てていただきたい。また、資料に記載されている「所管課が中途半端」というのは、その通りであるが、以前、Wi-Fi環境があるログハウスも図書館で管理してはどうですかと伝えたが、今までは承諾が得られなかった。ログハウスについても図書館で管理を受けていただけるなら、図書館で自由に使っていただいて構わない。

<教育部>

ログハウスの利用者は修善寺図書館のカウンターで申し込みをするので、全ての管理を図書館がやっていると思われるようだが、実はそうではない。Wi-Fiに関しても、電算担当部署が管理しているので、そこが用意した書式でなければ申込手続きができない。

<市長部局>

ログハウスの申込の仕方については、調整して利用者が簡単に手続きできるようにしたい。

<教育部>

図書館ではカードを作るときに、住所等のデータを登録するので、図書カードを見せてもらって使えるようになればよいと思う。

<市長部局>

ログハウスの利用の際には Wi-Fi のパスワードを記載した用紙を渡していると思う。今後、マイナンバーカードで申込ができるようになれば、それで全ての手続きが済む形にしてもらっても構わないと思う。その点については担当課と調整させる。

<市長>

私もログハウスを使ったことがあるが、Wi-Fi を使うのに、なぜ住所まで書かないといけないのかと思った。

<教育部>

ログハウスの Wi-Fi が悪意のある情報の発信源になったときに、使用者を特定できるようにしたいということではないか。予算については、図書館にかかる部分の費用について、資産経営課と協議をしている。

<市長>

スポーツ施設については、他に天城ふるさと広場もある。天城ふるさと広場はたくさん人が来てくれて、お金を落としてくれるのは良いが、利用者が一定の時期に集中する。利用者が多いのは春休み、5月の連休、夏休み期間であり、他の平日はほとんど空いていると思う。私が今日確認したいこと、申し上げたいことは、以上であるが、教育委員の皆さんから意見はいかがか。

<教育委員>

大変勉強になった。伊豆総合高校の魅力を出すにはどうしたらよいかについて、考えたが、元々の工業高校だった時の特色は薄れてしまっているようである。では、どのように進学する高校を選択するかとなると、結局、偏差値がこの辺りの位置だから伊豆総合高校を選択するという形になってしまうのは良くないと思う。地元の中学生に、もっと伊豆総合高校や土肥分校に行ってほしいと思っても、例えば太鼓を習っている子に関して言えば、和太鼓部のある沼津市の飛龍高校に行ってしまう子が多いようだ。所属している太鼓の団体の人から勧められて太鼓の部活がある高校を選ぶ流れがあると思うので、太鼓ができる部活が市内の中学校にあれば、郷土芸能部がある伊豆総合高校への進学に繋がるのかもしれない。また、例えば、トライアスロン部を伊豆総合高校土肥分校につくり、更に土肥小中一貫校にトライアスロンを絡めた授業があれば、土肥分校を選ぶ流れが出来てくるのではないか。そのような何かしらの魅力をつくらないと、成績で選ぶだけになってしまう。学校の魅力については高校側からも発信してもらいたい、せつかく新しい中学校ができるのであれば、中学校からも、伊豆総合高校へ行ってもらえるような努力をしたほうがよいのではないか。以前、教育委員会が部活動について小学生にアンケートをとったら、文化部を希望する子がかなり多くいた。しかし、文化部は種類が少ないので、伊豆中学校の文化部については改めて考えるべきだと思う。

<市長>

私も全くその通りだと思っている。静岡県の東部・中部・西部の高校の中で東部地区は圧倒的に私学が多い。その東部地域で、工業科目の高校に行くとなると、沼津工業高校を選ぶ人が多いので、伊豆総合高校を選んでもらえるような差別化が必要だと思う。このため、私は修善寺駅と牧之郷駅の両方から伊豆総合高校に行ける通学路を作るとか、土肥の海も活用するとか、自転車競技部も全国公募できないか等、いろいろな提案をしている。あえて沼津市や三島市の高校に行かない、伊豆総合高校に行きたいというものをつくらなければな

らないと思う。沼津市や三島市には私学が多く、それぞれの学校が特色をアピールして生徒を募集している。伊豆総合高校の校長先生も伊豆総合高校の教育はとても良いとおっしゃってはいるが、それだけでは残念ながら選んでもらえない。

<教育長>

子供たちが高校の内容を知りたいときに、オープンスクールだけでは理解できない部分もある。コロナ禍の前は、もの作りのような形で中学校や小学校に出向いて出前講座をやってもらっていた。伊豆総合高校にはまたぜひ交流をやりましょうという話はしている。

<市長>

部活については、どうしてもこれをやりたいという情熱を無視するわけではないが、全員が野球の大谷翔平選手のようになれるわけではないので、小学校低学年から1種類にしぼることについては、私は違和感がある。欧米では、大学まで何種類もの競技をやっている人がいるし、メジャーリーグかプロバスケットボールの世界のどちらに行くか、というような選手がたくさんいる。それなのに小学校2・3年生の段階で、既に僕は野球だけ、サッカーだけしかやらない、というのは果たしてどうなのだろうか。文化部に所属しながら運動部に入っても全然問題ないし、甲子園までは目指さないが、僕は野球も好きだから野球もやりながら天文学も学びたいというようなことがあってもよいと思う。

<教育長>

部活動は地域移行の話が出てきており、クラブチームや学校外の色々な体験をしていこうという流れが出てきている。そのような時代の変化の中で、どのような活動ができるのか、また、どこにも属さないという子も出てくると思うので、そのような子供たちの受け皿について、社会教育課でも考えてもらっている。伊豆総合高校の郷土芸能部の子たちが定期的に中学校へ来て太鼓を教えてくれるとか、外部の方が文化的な内容の講座をやってくれるとか、そのようなこともぜひ、進めていければよいと思っている。

<市長>

私から確認したいことは以上である。他に皆さんから特になければ、総合教育会議の議事は終了とする。

## 4 閉 会

<教育部>

本日の議題については、進捗があればまた市長へ報告させていただく。以上で令和5年度第2回の総合教育会議を閉会とする。